

講演標題

『中国南部(西南地区)貴州省などの少数民族の人たちと その生活』 (300枚程の写真によるご紹介)
 中間休憩後には『神仏習合の面影を今に残す五箇山白山宮「33年御開帳・式年大祭」(昨5月)の報告』

(これは、前回の講演(昨年9月)「白山山中での昔の暮らしと、かつての白山信仰」の続きに相当：演旨は次頁に)

講師

日本山岳会(茨城支部)会員 長岡正利

最近の社会状況により、3月末頃まで様子を見ていて、延期する可能性もあります。恐縮ですが、お越しの前に、下の「問い合わせ」先にご確認をお願いします。

日時：令和2年4月11日(土) 午後1時30分～3時半頃 (受付は13時10分から)

場所：JR土浦駅(上野駅から1時間)西口前「土浦市役所」(うらら^{うらら}URARAビル)5階「県南生涯学習センター」内、小講座室 No. 1
 入場は無料です。どうぞ、お越し下さい。(当日の会場へのご連絡は、Tel.029-826-1101：茨城県南生涯学習センター)

お問い合わせ 日本山岳会茨城支部・事務局 高木康雄 あてに：Tel.029-872-5476

主催：公益社団法人日本山岳会 茨城支部

講演の内容

中国の貴州省は、雲南省から東方の湖北省に向かって低くなる、標高1000m前後の、雲貴高原と呼ばれる起伏に富んだ山地になっています。

省の広域には古生代の石灰岩が分布して、中国有数のカルスト地帯(中国南方カルスト)となっており、一部は世界遺産に登録されています。大きな平地がないことから、「地に三里の平地無し」と言われ、全域が亜熱帯高原であるため、極端な暑さ寒さはないものの、降水量は多く、晴天の日が少ないことから、「天に三日の晴れ無し」。僻遠のこの地は、昔は貧しかったゆえに「人に三銭の金無し」。すばらしい自然に恵まれ、近代化進展の中での心暖かな人達の地です。



(中国「貴州省」の位置)



貴州省の省都・貴陽市には、明の萬曆帝の時代に、「科挙」合格者が出ることを祈念した高秀楼が現存。



市街地から離れた農山村にも、突然に高層ビル群が出現。



山間部が多く、農耕地の殆どは見事に作られた棚田。(日本でも、むかし、よく見た風景。)



少数民族「苗(ミャオ)族」の一聚落。下写真の「黔东南苗族侗族自治州雷山县郎德苗寨」で。

貴州省の人口は約3580万人で、漢族が63%(約2200万人)。少数民族で多いのは苗(ミャオ)族397万人で、以下、布依(ブイ)族251万人、土家(トゥチャ)族144万人、侗(ト)族143万人と続きます。省面積の1/2以上が少数民族の自治区域となっています。これらの民俗は、近年、観光資源化されています。[統計データは中文版Wikipediaより]今回は、これらのうちの幾つかの民族の人たちと、その生活を紹介します。なお、民族が同じでも、その聚落(寨；村)が違えば、人々の装いなどは違うのが普通です。下は、苗族の「郎德」村を訪れた際の写真です。



村の入り口で、歓迎の蘆笙演奏。(貴州省の「郎德苗寨」で。)



広場の中央での蘆笙。重低音の大笙から、旋律演奏の小型まで。昔が想われる懐かしいメロディの。



蘆笙を囲み、総出での旋廻。



村へ入る前のお酒でのお出迎え

次回(第66回)は 6月13日(予定)に、真木太一様(九州大学名誉教授)による「75歳・心臓身障者の日本百名山・百高山単独行」

日本山岳会 茨城支部 講演会 (第 65 回):

当日の、休憩のあとの 後半のお話し

前半は、『中国南部・貴州省の少数民族の人たちとその生活』のお話しでした。

後半、休憩のあとには、前半と同様に、たくさんの写真により、

『神仏習合の面影を今に残す五箇山白山宮「33年御開帳・式年大祭」の報告』を。

(前回の講演(昨年9月)「白山山中での昔の暮らしと、かつての白山信仰」の続きです。)

(内容は、昨年11月の「日本山岳文化学会 17回大会」での一般講演に、紹介写真を更に増補したものです。)

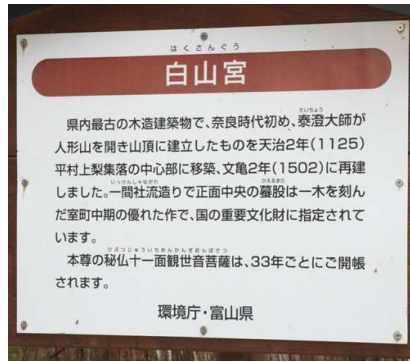


五箇山各聚落からの祝賀・ご祝儀の人達

石川・福井・岐阜県にまたがる白山は、伝承に拠れば、越前の修験僧・泰澄たいしやうが養老元(717)年に開山したとされ、それから1300年目の2017年には、福井・石川・岐阜県などの関係の各地で「白山開山1300年祭」が華やかに催されました。

古来の白山信仰(白山修験)は、天台密教系の、神仏習合のかたち(十一面観音菩薩を本地仏とし、その垂迹神が白山(妙理)大権現)でした。しかし、全国におけると同様に、慶応4(1868)年3月の神仏判然令(分離令)によって、神社と寺院の分離独立とその僧侶の還俗や、仏像を御神体とすること等も禁じられました。一方では、五箇山ごかやまの白山宮(富山県南砺市上梨かみなし)では、神社ではあるものの、その「ご本尊」には「秘仏・十一面観音菩薩」があって、近年は33年ごとにご開帳がおこなわれてきました。ここでは、昨年5月のそのもようを、多くの写真で紹介します。

この白山宮は、伝承に拠れば、白山開山の泰澄が人形山しらやまくりひめのみことに白山菊理媛命を勧請・建立したものとわれ、後に現在の上梨聚落に移設して、文亀2(1502)年に再建されたもの(棟札の記述による)で、国指定の重要文化財です。



御開帳の早朝に、拝殿と本殿鞘堂板戸を開放。

右は、本殿正面上の、鎌倉時代初期の様式の蛙股。

白山宮の鳥居前には御開帳標札と、重文説明にも「33年御開帳」の旨が。



御開帳が始まって、五箇山各聚落からの獅子舞が次々に奉納される。



拝殿では、子供達による「こきりこ踊り」を奉納。



上梨地区の人達が、正装で、次々に御開帳を拝観。右仮設では宝物展示。



国重文「合掌造り/村上家」での「こきりこ踊り」(ご開帳とは別機会)(この踊りと衣裳の復元は昭和26年)

ご開帳については、養老元年の泰澄による創祀と伝わる平泉寺白山神社でも33年ごとに行われてきており、次回は2025年です。一方では、若き日の泰澄が遙かに白山を望んで登峰・開山を志したと伝わる越知山大谷寺(福井県越前町大谷寺)でも、15年前後の間隔をおいてのご開帳が行われて来ています(前回は昨年11月2-4日)。

白山宮の秋季例大祭は毎年9月25・26日で、行政側による「こきりこ祭り」も同日です。

「ご開帳」以外は、ほぼ同じものが見られますので、皆様、どうぞお越し下さい。

(右写真は秋季例大祭の一部)



当日昼の奉納踊りと、



昔からと同様に、夜の訪れと共に始まる五箇山白山宮の秋祭り

